

2024 年度事業計画

2022 年 2 月に始まったロシアのウクライナ侵攻が膠着化するなか、中東ガザ危機なども加わり地政学リスクが一層顕在化し、世界のエネルギー情勢に大きな影響を与えています。国際エネルギー価格は、高騰した 2022 年と比較すると低下したものの、いまだ高値水準にあり、エネルギーセキュリティが大きくクローズアップされるようになりました。

また、2024 年度は米国大統領選をはじめ各国で国政選挙が行われる年でもあり、それらの結果が世界のエネルギー情勢にどのような影響をもたらすのかについても注視していく必要があります。

さらに、気候変動対応についても、COP28 の結果や世界情勢を踏まえて対応しなければいけない重要課題であり、省エネ、再エネ、新技術の実用化・コストダウンをはじめ、国内外における各産業分野における取り組みが活発化するなど、エネルギーの将来は、これまでにない新たな局面を迎えようとしています。

こうした情勢を受け、「エネルギーの開発及び利用に関する進歩発達を図る」という設立時の理念が再び重要性をおびてきたことを再認識したうえで、エネルギー変革新時代におけるミッションを具体化して会員サービス事業を進めていく必要があります。加えて、世界エネルギー会議（WEC）の事業活動への参加・協力を通じて、エネルギー分野の諸課題に対する情報提供と発信について、今まで以上に積極的に行っていくことが求められています。

このような課題認識を踏まえ、当協会の以下の 3 つの基本理念に則り、新たな技術や業界の枠を超えた取り組み、エネルギー供給サイドのみならず需要サイドや社会構造やビジネス環境の変化にも注目して、今後の事業活動を展開していくこととします。

- 1 エネルギーを始めとする多様な事業領域の結集と調整を行う国内唯一の民間組織としての強みを発揮し、業際・国際間の諸課題の解決に貢献する。
- 2 会員事業者等の知見と協力を得つつタイムリーな施策提言や調査報告等を行い、多様性を活かした課題の共有に努める。
- 3 世界エネルギー会議（WEC）のメンバーとして、海外のエネルギー情勢を適切にフォローするとともに、我が国の状況や立場を発信し、相互の理解促進を図る。

以上の認識のもと、本年度は以下の事業を展開してまいります。

- ・重点事業：WEC ロッテルダム世界大会に会員とともに参加し、大会の活性化と成功に貢献する。
なお、大会終了後、同大会の報告会を日本国内で開催する。
- ・WEC 事業：Officer's Council や総会、常設委員会、アジア地域会議等に参加する。
- ・国内事業：時宜を得たテーマの「公開講演会」「パワートーク」等を引き続き開催する。
- ・事業運営：会員のニーズを踏まえ利便性と効率性を兼ねたイベントの企画運営に努め、国内外に向けたタイムリーな情報発信、情報セキュリティの強化を積極的に進めるなど、会員サービスの維持、質的向上を図る。
また、移行法人としての円滑、適法な事業運営を行い、引き続き経費削減に努める。

1. 普及啓発事業

(1) 機関誌発行事業

- ・「エネルギーと動力」を2刊（春季号：5月、秋季号：11月）発行して配布する。
- ・企画を審議するための編集委員会を開催する（2回）。

(2) シンポジウム事業

○公開講演会の開催

国内外におけるエネルギー情勢等に関する講演会を開催する。

- ・登壇者：調整中
- ・開催日：10～12月頃を予定
- ・場所：東京都内
- ・開催方法：ハイブリッド

2. WEC 事業

(1) 第26回 WEC ロッテルダム世界大会への参加

日本からの登壇者、一般参加者、展示出店者とともに大会に参加し、議論を活性化し、WECのブランド力向上と大会の成功に貢献する。併せて、現地にてレセプションを開催する（4月22日）。

- ・開催日：4月22日（月）～25日（木）
- ・場所：オランダ・ロッテルダム Rotterdam Ahoy コンベンションセンター
- ・大会テーマ：“Redesigning Energy for People and Planet”

(2) 第26回 WEC ロッテルダム世界大会報告会

4月に開催されるWEC ロッテルダム世界大会の参加報告会を定時総会に合わせて開催する。

- ・登壇者：東京大学大学院・松橋 隆治 教授 他
- ・開催日：6月17日（月）午後（定時総会開催後）
- ・場所：経団連会館
- ・開催方法：ハイブリッド

(3) WEC 年間活動への参加

①Officer's Council への出席

当協会・廣瀬会長がWEC副会長として、Web等により会議に出席。

②執行理事会（Executive Assembly）および常設委員会等への参加。

執行理事会、常設委員会等に委員および事務局が参加。

③WEC アジア地域会議への参加

毎月開催される地域月例会議（Web）に参加。コロナ禍で休止していた、一堂に会しての会議の復活を検討中。

④その他諸活動

非定期的ワークショップ、ラウンドテーブル、調査活動等に参加・協力する。

(4) WEC 調査事業への参加

「世界のエネルギートリレンマ (World Energy Trilemma Index)」、「世界のエネルギー課題 (World Issues Monitor)」、「パルス調査 (World Energy Pulse)」をはじめとする旗艦調査事業について、引き続き調査支援等を行う。

(4) WEC 創立 100 周年事業 (2023 年～) についても、日本国内委員会として、特別イベントの開催等を通じて協力・参加する。

(5) 会議の開催

- ・世界エネルギー会議日本国内委員会定時委員会
同委員会定款第 10 条第 1 項に基づき、定時委員会を当協会の定時総会と同時に開催する (6 月 17 日)。

3. 会員サービス事業

(1) 講演会・パワートーク等の開催

① 第 38 回パワートークの開催

- ・登壇者：電力広域的運営推進機関 理事 寺島 一希 様
- ・テーマ：『2024 年度電力供給計画の取りまとめの概要』(仮題)
- ・開催日時：5 月
- ・開催方法：ハイブリッド (検討中)

② 第 39 回パワートークの開催

- ・2 月頃、副会長会 (4 (1) に後述) における有識者の講演会を、会員向け講演会「パワートーク」として、会員企業にアーカイブ配信等を行う。

(2) ニュースレターの発行

会報「ニュースレター」を隔月 (偶数月 15 日頃・計 6 編) 発行する。

4. 事業運営・会議他

(1) 会議の開催

- ・定時総会 1 回：6 月 17 日 (月)
- ・理事会 2 回：5 月 23 日 (木)、3 月
- ・運営評議員会 1 回：3 月 (理事会との合同開催)
- ・副会長会 1 回：2 月頃

(2) 委員会の開催

- ・技術委員会 2 回：7 月、1 月

(3) 情報発信 (会員、国内外の会員以外) の充実

- ・ホームページ (リニューアル版) や X (旧 Twitter)、その他デジタルツールを活用することなどにより、会員とのコミュニケーションの充実を図るとともに、日本のエネルギー事情等の情報発信など、国内外の会員以外に対しても、効果的かつ効率的な情報発信に努める。

以 上